

「統合報告書2025」の発行にあたって

日本空港ビルグループは、持続的な成長と企業価値向上に向けた取り組みについて、すべてのステークホルダーの皆さまにご理解を深めていただけるよう、2023年度より統合報告書を発行しております。

「統合報告書2025」では、現中期経営計画の最終年度を迎えるにあたり、長期ビジョン「To Be a World Best Airport」実現に向け、マテリアリティを踏まえた収益基盤戦略や、財務戦略などの経営基盤戦略の進捗と課題、その対応策について、コンプライアンス違反事案に関する再発防止への取り組みも含め、具体的に記載しております。

また、私たちの根ざす羽田空港という「場」のポテンシャルと、私たちが有する6つの資本の強みを組み合わせることで、ありたい社会の実現のために、事業を通じて社会にインパクトをもたらすことを目指す意思を打ち出しています。

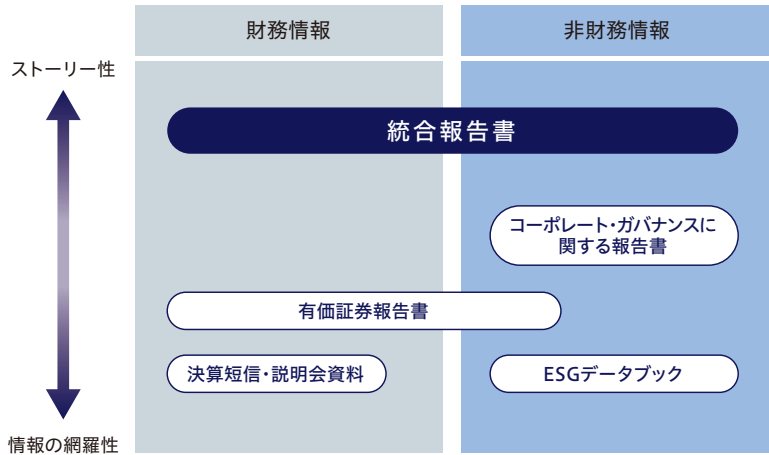
当社グループは今後も引き続き、ステークホルダーの皆さまへの適時適切な情報開示と積極的な対話に努めてまいります。この報告書が、皆さまとの相互理解や対話のきっかけ、有用なコミュニケーションツールになるよう願っております。

最後に、本報告書の作成プロセスが正当であり、記載内容が正確であることをここに表明いたします。

上席常務執行役員
サステナビリティ推進室統括

植田英嗣

情報開示体系



対象期間

2025年3月期(2024年4月～2025年3月)
※ 実績データに関しては2024年度を対象としましたが、一部、2024年3月以前及び2025年4月以降の活動内容を含みます。

対象組織

日本空港ビルグループ
※ 関連会社は下記URLに記載しています。
https://www.tokyo-airport-bldg.co.jp/corporate_profile/group.html

本レポートに関するお問い合わせ

日本空港ビルディング株式会社 サステナビリティ推進室
〒144-0041 東京都大田区羽田空港3-3-2 第1旅客ターミナルビル
E-mail:sustainability@jat-co.com
Tel:03-5757-8064

見通しに関する注意事項

本報告書には、将来に関する見通し及び計画に基づいた予測が含まれています。実際の成果や業績などは異なる可能性があることをご承知おください。

編集方針

「統合報告書2025」は、日本空港ビルディング株式会社が事業を通じて、どのように社会課題を解決し、持続的な企業価値を向上していくのかをお伝えするために制作・発行いたしました。制作にあたっては、IFRS財団が推奨する「国際統合報告フレームワーク」及び経済産業省が策定した「価値協創のための統合的開示・対話ガイダンス」を参考に編集しています。



CONTENTS

目指す未来

日本空港ビルグループの長期ビジョン及び2030年の目指す姿、それらの達成に向けた経営方針・戦略や新社長としての想いを記載しています。

05 | 長期ビジョン／2030年の目指す姿
07 | トップメッセージ

価値創造ストーリー

日本空港ビルグループの資本や羽田空港のポテンシャルを活用し、長期ビジョンの達成とそれによるインパクトの創出をいかにして実現していくかを記載しています。

15 | 価値創造プロセス
17 | 価値創造のあゆみ
19 | 事業概要
21 | 価値創造を実現する資本
23 | 事業を取り巻く環境と羽田空港のポテンシャル
25 | サステナビリティ
27 | 社会課題解決の取り組み

中期経営計画

中期経営計画の最終年度として、これまでの進捗と目標達成に向けた戦略や、具体的な取り組みについて記載しています。

29 | 中期経営計画の全体像
31 | 収益基盤戦略／施設管理運営業
33 | 特集「持続的な成長を支える空港機能の強化と利便性向上」
35 | 収益基盤戦略／物品販売業・飲食業
37 | 特集「顧客価値最大化による持続的成長の実現」
39 | 収益基盤戦略／新規事業・ノウハウ事業
41 | 経営基盤戦略／財務戦略
43 | 経営基盤戦略／DX戦略
45 | 経営基盤戦略／組織・人材戦略

マテリアリティへの取り組み

日本空港ビルグループの持続的な価値創造のため特定した8つのマテリアリティ(重要課題)に関する進捗や取り組みを記載しています。

47 | マテリアリティ(重要課題)とKPI(重要業績評価指標)
49 | 気候変動への対策
51 | 限りある資源の有効活用
53 | TCFD・TNFD提言への対応
55 | 安心・快適で先進的な空港づくり
57 | 人材育成
58 | DEIの推進及び人権の尊重
59 | 地域・地方への貢献
61 | 公正な事業活動の推進
63 | リスク管理の強化

コーポレートガバナンス

コーポレートガバナンスの再構築、強化・充実にに向けた取り組みについて記載しています。

65 | コーポレートガバナンス体制の再構築に向けて
66 | 社外取締役メッセージ
67 | 体制図・会議体、取締役会の実効性評価
69 | スキルマトリックス、社外取締役の独立性判断基準
71 | 役員報酬等に関する基本方針、政策保有株式
73 | 取締役一覧

PICK UP

データ

日本空港ビルグループの財務／非財務価値に関する各種データや、会社概要などを記載しています。

77 | 財務／非財務ハイライト
79 | 財務11ヵ年データ
81 | 会社概要、株式情報、グループ会社一覧



ひと・モノ・文化が行き交う日本の空の玄関口
「羽田空港」を支える企業グループとして、
ひとの心を動かす「空港」の創造に向け
挑戦し続けます。

日本空港ビルグループの理念体系

基本理念

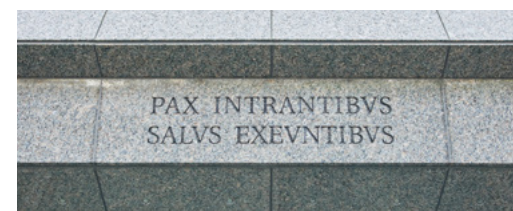
公共性と企業性の調和

CS理念

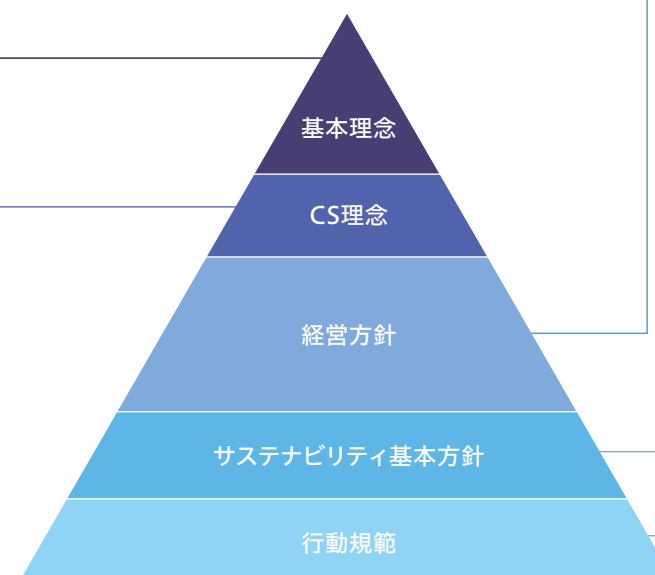
訪れる人に安らぎを、去り行く人にしあわせを PAX INTRANTIBVS SALVS EXEVNTIBVS

このラテン語の銘文は、中世の風情を色濃く残す珠玉の城塞都市・ドイツ連邦共和国ローテンブルク市のシュピタル門に刻まれ、今でもここを訪れる人々を静かに迎えてくれます。

私たち日本空港ビルグループは、この銘文をCS理念とし、羽田空港をご利用されるすべてのお客さまにご満足いただけるサービスの向上に取り組んでいます。



このCS理念を心に持ち続けるために、日本空港ビルグループのCS推進年間優秀賞受賞者とともに、毎年ローテンブルク市を訪問しています。



経営方針

旅客ターミナルにおける絶対安全の確立
お客さま本位(利便性、快適性、機能性)の旅客ターミナル運営
安定的かつ効率的な旅客ターミナル運営
企業体質の強化及びグループ企業の総合力向上

サステナビリティ基本方針

日本空港ビルグループは、公共性の高い旅客ターミナルの建設、管理・運営を担う民間企業として、「公共性と企業性の調和」という基本理念を掲げています。「To Be a World Best Airport～世界で最も評価される空港、すべてのステークホルダーの満足の追求～」の実現に向けて、「サステナビリティ基本方針」のもと、経済社会の発展に貢献しながら持続可能な事業活動を推進していきます。

詳細 <https://www.tokyo-airport-bldg.co.jp/sustainability/themes/>

行動規範

経営理念並びに経営方針を実現するために共有すべき行動規範として、すべての役員及び従業員一人ひとりが行動する際の行動の拠り所となる基準を示しています。

詳細 https://www.tokyo-airport-bldg.co.jp/corporate_profile/policy.html

TO BE A WORLD BEST AIRPORT

～世界で最も評価される空港、すべてのステークホルダーの満足の追求～

日本空港ビルグループは、いかなる事業環境においても変わることのない目指す姿、そして社員一人ひとりの指針となる長期ビジョンとして、「To Be a World Best Airport」を掲げています。

ステークホルダーの満足を追求し続け、その過程において羽田空港が世界で最も評価される空港、世界No.1空港になるという強い決意を示し、グループ一丸となってすべての従業員が夢を持ち、主体的に活躍していくための不変の指針です。

世界No.1というのは、旅客数やターミナルの大きさではありません。さまざまな工夫と知恵を出し合い、隅々まで心配りを施すことで必要機能を十分に満たし、空間のダイナミックさよりも、お客さま目線でのサービスを心掛け、細かなところにも徹底的にこだわるような、羽田空港ならではの世界No.1です。

この長期ビジョンのもと、お客さまの心を豊かにし勇気や力が湧いてくる、何度でも訪れたくなる空港を目指してまいります。

私たちを取り巻くステークホルダー



2030年の 目指す姿

日々変わりゆく事業環境の中で、長期ビジョン「To Be a World Best Airport」を実現し、空港のリーディングカンパニーになるために、2030年の目指す姿として「人にも環境にもやさしい先進的空港2030」を掲げています。日本を代表する空港・日本の空の玄関口として世界から評価される存在、すべてのステークホルダーから信頼される空港ターミナル会社のあるべき姿を描き、目標としています。

2030年の目指す姿

日本を代表する空港・日本の空の玄関口として、
【ベスト・モデル】を創り出し、世界から評価される存在となること

～ 人にも環境にもやさしい先進的空港2030 ～

世界随一の
“おもてなし”

安全・安心な
空港

快適な旅
～ストレスフリー～

エコ
エアポート

すべてのステークホルダーの皆さまから
信頼される空港ターミナル会社

サステナビリティが経営・事業推進に浸透している

- サステナビリティ基本方針に従った事業推進と管理体制の確立
- CO₂削減目標対2013年度比46%削減

オペレーショナル・エクセレンスを確立している

- 「コロナ禍の学び」など品質・効率性の改善への継続的な取り組み
- エアラインとの連携によりターミナルの新しい活用方法を確立
- デジタルマーケティングが新しいサービスの創出と旅客満足の向上に寄与
- DX・システム化による管理業務などの生産性の向上

将来の航空需要増加を見据えた空港機能を確立している

- サテライト整備による第1・第2ターミナル拡張完了と運用推進
- JR東日本「羽田空港アクセス線」(2031年度予定)と第2ターミナルの接続
- 国の人工地盤整備の検討と連携したターミナル整備の研究検討

※第1・第2ターミナル接続(新たな国際線エリアの整備)の検討

安定的な収益源と財務基盤を確立している

- 航空需要増加を物販・飲食・サービス事業の収益向上に取り込み
- 新たに展開する事業が収益基盤の一翼を担うまで成長
- 自己資本比率が40%台に回復し格付を維持

組織力とガバナンスを一層高めている

- 「自ら考え挑戦する人材」の活躍、多様な人材が互いを高め合う企業風土
- 事業環境に適合するグループ経営体制の構築
- より高い経営の透明性と公平性、企業価値向上を実現するガバナンスの確立